

投げて走ってスポーツ体験



タグラグビーって面白い

八戸

白銀南小児童60人
八学大生から教わる

八戸市の八戸学院大ラグビー部は9日、同市白銀南小学校体育館でタグラグビー教室を開いた。同校2年生約60人と保護者が、男子部員たちの指導を受けながら、ラグビーの楽しさに触れた。写真。

教室は、学生が企画した地域貢献活動を市が支援する学生まちづくり助成金事業の一環。スポーツを通して子どもたちの健全育成に取り組む市民団体「YELPO(エルポ)」(戸賀

澤美奈代表)と合同で開催した。

タグラグビーはタックルなどの接触プレーがなく、腰に張り付けた2本のタグを取って相手の前進を止める。児童たちは、タグの取り合いゲームやラグビーボールを使ったパス練習をした後、攻守に分かれてタグラグビーを体験。トライを目指して猛ダッシュしたり、タグを取ろうと相手を必死に追いかけるなどして歓声を上げた。

西野世羅君(8)は「相手からタグを取るのが楽しかった」、壬生誠之助君(7)は「ラグビーって面白い」と話していた。(小橋徹)